

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわ ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2008年度 Vol.1

自然・環境 と 花・蝶

わたしたちは元気で、明るく楽しい生活をするとともに、自然を大切にしよう、環境を守ろうと心がけています。春になれば陽射しは強くなり、花が咲き蝶が飛び交いますが、これは当たり前のことでしょうか。自然があり、環境が守られているからこそ花は美しさを見せ、蝶は花に止まるのです。花も蝶もそんな自然と密接に関係し、わたしたちの生活に潤いを与えてくれています。

林試の森公園でおいしい空気を吸おう

品川区と目黒区の境に林試の森公園があります。4月27日(日)「林試の森コンサート」が開催され、青空の下コーラスやオカリナ、太鼓の演奏、ホルンの6重奏などがありました。林試の森公園は、以前は林業試験場であったところで、試験場が移転した後、平成元年に都立の公園として整備されました。



森の中は道も整備され、家族連れが遊びや散歩を楽しんでおり、空気がおいしいと感じられる都心の一空間です。この森の樹木は100年以上の歴史があり、幹の回りが3mを超える樹木もたくさんあります。また、わたしたちの活動や呼吸から発生する二酸化炭素(CO₂)をしっかりと吸収してくれているのではないのでしょうか。



環境記者活躍中

環境記者の内田雅弘さんは区内の自然を追いかけ、公園はもとより道端に咲く花々にも注目して、さまざまな写真を送ってくださっています。

区立池田山公園は、高低差はあるものの、よく整備された回遊式の庭園です。住宅地の真ん中にあるこれらの木々は、林試の森公園同様、二酸化炭素(CO₂)の吸収に大いに役立ってくれているのではないのでしょうか。



立夏を前にした池田山公園は新緑に包まれていました。池の付近から見上げる庭園の斜面に、所々ツツジが見られました(5月上旬)。5月中下旬にはサツキが可愛らしさを見せてくれました。なお、区の花は「サツキ」です。

区内のバラの名所の一つであるしながわ花海道(鮫洲橋袂のミニバラ園)では、5月のバラが見頃になり、赤、黄、白、ピンク他、大小のバラが咲き誇っていました。こちらでは日本バラ協会指導員の方が、いろいろなバラを育てています。



蝶の道プロジェクト

「蝶の道プロジェクト」は、蝶の行動範囲などを考えて「蝶のレストラン（食草園）」をつくり、蝶の飛び交うエリア「蝶の道」を広げていくプロジェクトです。

蝶の道プロジェクトでは、学校によっては特別授業で生き物の生態系や自然環境についての授業を行ったりもします。このあとみんなで食草園を作ります。



ルリタテハチョウは、去年までは区内西側の方でしかみないチョウでした。プロジェクトに参加している人たちと食草であるユリ科の植物を植えたせいか、今年東大井でも見ることができるようになりました。

環境リサイクル講座 「さき布から“ぞうり”を作ろう」好評の内に終了



平成20年4月29日と5月6日の2日のわたり、環境情報活動センターにおいて「環境リサイクル講座 ～さき布から“ぞうり”を作ろう～」が開催されました。ゴールデンウィーク中の2日出席にも関わらず、25名の定員になんと150名を超える応募をいただく人気講座でした。当日は布ぞうりサークルから3名の指導者を迎え、受講者のみなさんは熱心に布ぞうり作りに取り組みました。これまでにこの講座に参加した人たちが中心となり、サークルとして活動を行っています。

本講座は家庭にある古布を使ってオリジナルのぞうりを作る講座で、ぞうり作りを通してリサイクルに関心を持っていただくことが目的です。

1日目はぞうりの本体作りです。初めは戸惑いから心配顔も見られましたが、作業が進む内にみなさんの手の動きは滑らかになって行きました。1テーブル6人のメンバーは以前からの友達のように和気あいあい、部屋中明るい雰囲気でした。

2日目は鼻緒作りから始まりました。布を芯に巻きつけて行きますが、ここでしばらく手が止まります。しかし、お互いの協力でき実に完成に向かって前進です。



今回は2日間の講座、計5時間をかけて一足が出来上がりました。みなさんの満ち足りた笑顔が印象に残っています。

楽しかった、以前から布ぞうりを作ってみたかったが夢が叶ってよかった、なかなか難しかった等、様々な声をお聞きしました。人気の講座ですので、今後の開催も検討したいと思っています。



ご存知ですか？

しながわ花海道プロジェクト

地域の皆さんの力の結集が、きれいな花畑を創り出した「しながわ花海道プロジェクト」の事例をご紹介します。

近年、環境問題が地球規模のテーマとなっており、私たちの生活にも関わりが出てきています。「しながわ花海道プロジェクト」の活動はお花畑をすることによって土と触れ合い、花の成長と周りの生き物や自然環境を守ることを学んでいます。勝島運河周辺ではこの活動を始める前は雑草が生い茂り、ごみが散乱する一帯でした。



2002年7月、区の許可の下で地域の有志がコスモスの種をまき、花畑作りを開始しました。10月にはコスモスが見事に咲き、



自信を持った有志は「しながわ花海道プロジェクト」を正式に立ち上げました。12月には一般の方への呼びかけを行い、約500人の方が集まり、第1回目の種まきイベントを行いました。



最初は花の咲き具合も必ずしも十分ではなかったものの、会員の努力もあり、2回、3回と回を重ねるごとにきれいな花が咲くようになりました。2007年に勝島運河東岸に桜の苗木56本を、地域の小中学校の子供たちと住民の方々と植樹しました。

花の見頃の時期にはイベントを行い、「しながわ花海道」の周知にも努めており、6年目を迎えた今年には区のお花見の新名所として、また住民が安心して楽しめる場所になってきました。写真①が、今年の3月にはこんなにきれいな菜の花の咲く岸になりました。



この活動がもとで勝島・浜川・鮫洲運河ルネサンス協議会、勝島運河倶楽部、蝶の道プロジェクト、バラの花育て方教室などの新しい活動へと広がり、今後の活動への期待と夢が更に大きくなってきました。多くの方の心と力により、蝶が舞い、水鳥が飛び交うきれいな場所になりました。



ジャコウアゲハ



水鳥と遊ぶ



しながわ花海道へ是非一度足をお運び下さい。最寄り駅：京浜急行 立会川駅 品川区勝島運河高潮護岸の土手 周囲約2km

書評 コーナー



『木はいいなあ』
作：ユードリイ
絵：シーモント
訳：西園寺祥子
偕成社
(本体1,000円+税)

都市化と共に、自然と親しむ子供たちの生活は失われつつあります。ユードリイは『木はいいなあ』で、自身の幼い日々を経験した木とのすばらしい生活を、子供たちに味わってもらえればとの願いを込めています。子供たちに、自然の素晴らしさをあらためて芽生えさせてくれる絵本です。



『手にとるように環境問題がわかる本』

三菱UFJリサーチ&コンサルティング 環境・エネルギー部 著
かんき出版
(本体1,400円+税)

「環境問題」、「地球温暖化」

といった言葉を耳にすることが多くなりました。そう言えばごみの分別方法がより明確になったり、新たに「猛暑日」が設けられたり、南方の島が沈没するという話から、ある程度理解することができます。本書では地球温暖化とはどんな問題で、それがどのようにして引き起こされ、異常気象とどう関係しているのか、またその解決に向けてどういった取り組みがなされているのかなど、環境問題全体を分かりやすく解説してくれています。環境対策は国と自治体、企業、家庭、それぞれ大切な役割を担っていますが、環境問題を考えた私たちの暮らしのあり方を教えてくれています。

環境学習講座「環境都市江戸に学ぶ」

5月17日(土)品川歴史館において環境学習講座「環境都市江戸に学ぶ」(講師:同館 富川武史学芸員)が開催されました。

東海道品川宿をとりまく環境について、江戸と品川、水とのかかわりを中心に話が進みました。



品川宿の上水は、元は多摩川の水で、8里の道のりを経て玉川上水から引いていました。台地が多かった品川では水の確保に苦勞をしたので、

上水施設を整えていたのですね。

一方、町屋から集められた下水は東海道の下を通り、海に流れ込むようになっていたようです。しかし当時の下水は現在のように工場排水はもちろん、洗剤や石鹼などもなかったことから、現在よりずっときれいでした。また畑の水として再利用もしていたようです。

わたしたちの中にも、過去の生活においてこのような下水の記憶を持っている人は多いと思います。環境をきれいに保つことを心がけたいものです。

品川歴史館の常設展示場では、東海道第一番目の宿場として栄えた品川宿を中心に品川の歴史を学ぶことができるようになってきました。一度訪れてみてはいかがでしょうか。品川歴史館(品川区大井6-11-1)最寄り駅:JR大森駅徒歩10分、JR大井町駅徒歩15分、バスの便あり



「もったいない・・・」の気持ちを大切に

リサイクルショップ「リボン」をご存知ですか?

「リボン」はNPO法人「エコタウンしながわ」が品川区の協力を得て運営しているリサイクルショップで、旗の台店と大井町店があります。

(旗の台店↓)

「ものを大切に使う」をテーマに

洋服、バッグ、雑貨や家具など、ご家庭にある品物の買い取りや委託販売をしています。

「捨てるのはもったいない」「ご縁があれば他の方に使っていただきたい」そんな品物がありましたら「リボン」をご利用ください。

お買い得品や掘り出し物をいろいろと揃えています。

「リボン」では、みなさまのご来店をお待ちしています。詳細はそれぞれの店にお問い合わせください。

*旗の台店 03-5498-7803

*大井町店↓ 03-5742-6933



品川区環境情報活動センター 今後のイベント予定

①「エコな買い物」環境にやさしい買い物をしましょう

私たちはゴミを減らす、節水・省エネなどでエコな生活を心がけています。買い物をする際にもエコを考えた消費者「グリーンコンシューマー」になりませんか。また「エコな商品」とはどんな商品でしょう。日時/6月22日(日)14時~16時

②「シロクマと温暖化」温暖化がシロクマの生存に影響を及ぼしている

何気ない私たちの日々の生活が、可愛いシロクマ君にどんな影響を及ぼしているのでしょうか? 人とシロクマの共存について分かりやすくお話ししていただきます。日時/6月29日(日)14時~16時

③「太陽光発電」未来のエネルギー社会に向けて

地球に降り注ぐ無限の太陽光エネルギーを使ってエネルギー問題を解決することができるのでしょうか。日時/7月15日(火)14時~16時

夏休み子ども環境講座

①気象予報士から学ぼう・ストップ地球温暖化

地球はどうして暖まるのか、それによってどんな影響があるのかなど、気象予報士の先生に分かりやすくお話ししていただきます。

②エコクッキング

料理を通して、楽しみながら環境問題を考えましょう。

講座の名称はいずれも仮称です。応募方法等については「広報しながわ」、「品川区環境情報活動センター」のホームページにて後日掲載します。

しながわECOだより2008年度Vol.1

発行:品川区環境清掃事業部

編集:特定非営利活動法人
エコタウンしながわ

発行日:平成20年5月30日

住所:〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX:03-5742-6533

E-mail:center@shinagawa-eco.jp

HP:http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう



ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2008年度 Vol.2

—真夏の気温を2℃下げよう—

打ち水大作戦 しながわ 2008 一斉打ち水

8月2日(土) 15:00から「打ち水大作戦 しながわ 2008 (7月22日～8月23日)」の一斉打ち水が昭和通り商店会で開催されました。

当日は晴天で午後3時現在、周囲の気温は34℃という



暑さです。開始に向けてのカウントダウンに続き一斉に打ち水が始まり、こどもたちの元気な声が飛び交いました。

打ち水では風呂の残り湯やこども用プールの残り水などの再利用水を使い、水道水は使いません。これが打ち水のルールです。

打ち水によって気温はどう変わったでしょう。周囲の気温はあまり変化していませんが、日向の地表面近くではなんと10℃以上も下がり、暑さが少し和らいだように感じるという声が聞かれました。



打ち水終了後は、使ったジョウロや水鉄砲、うちわ、風鈴、エコバッグなどを土産にいただきました。

こどもたちの元気な声と笑顔が印象に残り、楽しかった打ち水会は無事終了しました。

環境記者活躍中

観察を開始した当初、運河の中には僅か7種類の貝しか見られませんが、最近は様々な貝が見られるようになりました。

1995年まで運河の中の貝は非常に少なく、記録された種類は20年間で30種(2008年8月現在97種を記録)、定着種は15種でした。

ところが1996年になると、これまで東京湾奥で見られた種類の貝が運河の中に現れ始めました。一挙に12種類もの貝が新たに見られたのです。これは観察を始めて20年間で初

環境記者の青野良平さんは京浜運河を観察して33年、「川がきれいになれば、海もきれいになる」ことの証明です

めて運河の中で見る大きな出来事でした。

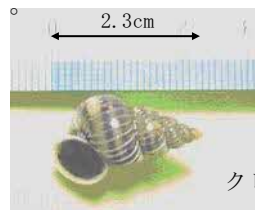
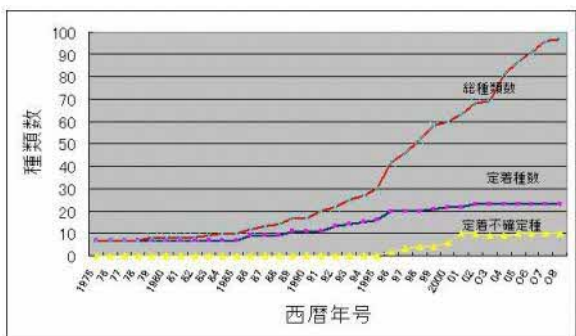
特に印象に残る貝では、1979年に1個だけ見つけたクレハガイです。自然の海岸でもなかなか見つけることが難しい貝で、大変珍しい貝とされています。そしてこの貝が運河で再び見られたのが1996年だったので、実に17年ぶりに見つかった貝、そして2000年からの定着につながって行きます。

1996年にこの現象が何故起こったのか。その答えを「目黒川に下水の高度処理水を流し始めた」との新聞記事に発見しました。またこの年を境にハゼの酸欠による浮き上がりが減りました。

目黒川への下水の高度処理水の放流は京浜運河に良い影響を与えてくれ

ましたが、やはり川は流れがないといけない、そんな印象を強く受けました。

一方、生き物の生息には家庭排水の影響が大きいとよく聞きます。流しに流す水を少しでもきれいにすれば更に運河の水もきれいになり、魚の酸欠をもっと減らすことが出来ると思います。皆さんのちょっとした努力で運河の「住民*」も暮らし易くなるのではないかと考えています。*運河の生き物を品川区の「海の住民」と呼んで観察を続けています。



クレハガイ

環境記者
青野良平さんの記事より

夏休み子ども環境学習講座

気象予報士から学ぼう・ストップ地球温暖化

1回目：7月25日、2回目：8月9日

会場：品川区環境情報活動センター

気象予報士から講義と実験を通して「ストップ地球温暖化」について49人の小中学生が勉強をしました。

第1回目のテーマは「地球はどうして暖まるのか」です。気象予報士の質問にみなさん元気よく手をあげ、正しく答えて行きます。



昔と今の生活を比べてみましょう。エネルギーを使う製品類が一杯あります。

エネルギーの節約を考えた生活の大切さが分かりました。

実験は部屋から出て外の温度を測ります。直射日光のあたるコンクリートの上は大変な暑さで、草の中や土の上とは大きな温度差がありました。

部屋に戻り、今日学んだ



ことをそれぞれの思いを込めてうちわに描きました。

第2回目のテーマは「温暖化でどんな影響があるか」です。

最近の最高気温が昔と比べ高くなっています。最高気温が35℃以上の日を猛暑日と呼ぶようにもなりました。東京でも4年前に39.5℃という



最高気温を記録しました。地球の気温が上昇し、日本ではこの100年間に1℃高くなっています。人間に当てはめると36.5℃が37.5℃になっている、微熱が出ているようですね。

一方、海の温度も上がっています。魚によっては獲りにくくなっています。またわずかですが海面水位の上昇もあります。



第一の実験は「海面上昇実験」です。水を満たしたフラスコの先にはガラス管がついています。フラスコのまわりに湯を注ぐと、ガラス管の水が上昇します。水は温度が高くなると分量が増えることがわかりました。



もう一つの実験は手回し発電機を使った「竜巻発生実験」です。半分に切ったペットボトルの上部にファンがついており、手回し発電機でそのファンを回すと下にあるドライアイス

の煙が上がります。質問に答え、楽しい実験を通して地球温暖化を勉強したみなさんの顔には、やり終えた満足感が見られました。



キッチンからはじめるエコロジー・地球にやさしい旬の料理をつくろう！

8月4日(月)から6日(水)の3日間、品川介護福祉専門学校内の調理実習室において「キッチンからはじめるエコロジー、地球にやさしい旬の料理をつくろう！」が開催されました。

身近な「食」を通して楽しみながら環境問題を考えるこの講座には、今年もたくさんの参加があり、キッチンでは連日、元気な子どもたちの熱気で一杯でした。エコ・クッキングインストラクターから環境に配慮した買物、料理、片付けに至る一連の流れの説明と、調理のデモンストレーションが行われました。



ごみを出さない野菜の上手な切り方、汚れた皿は古布で拭いてから洗うなど、誰にでもできるエコポイントがたくさんあります。いま教わったことを確認しながら調理開始です。少し緊張ぎみですが楽しそうです。

メニューは「いろいろ入れてドライカレー」、「イタリアン卵スープ」、「キャロットオレンジ寒天」の3品です。

「いろいろ入れてドライカレー」は、冷蔵庫に残っている野菜や肉を使っておいしく出来るから、冷蔵庫の整理にもなります。野菜はできるだけ皮ごと使ってごみを減らす工夫をしましょう。

さあ出来上がり。作り終わった



班から試食開始です。自分で作った料理の味はまた格別ですね。みなさん満足そう。

食べ終わったところで、次は後片付けです。水で洗う前に、小さく切った古布などを利用して汚れた皿を拭きます。そうすることで、汚れの半分以上が落ちてしまいます。

身近な「食」の中で、私たちにできるエコはたくさんありました。一人ひとりがエコを意識した生活をするのが、私たちの地球環境をとりもどす為の第一歩ということなのですね。



田植えをしました 稲が大きくなってきました！

5月21日(水)品川区役所屋上の田んぼで、二葉幼稚園児が田植えを行いました。毎年この時期に行っているもので、今年も13人が参加しました。みんな田植えはもちろん初めてで、順番を待つ間もはしゃいでいました。

この田んぼは、都市部のヒートアイランド現象の緩和等を目的に作られた庭園の一部で、普段は区の職員ボランティアが昼休み等を利用して世話や水やりを行っています。苗はもち米(もちみのり)です。



ボランティアの指導員は苗を手にとって「このくらいまで」と説明。説明を聞いた後、指導員をはさんで2人ずつ田植えを開始しました。慣れない泥に足をとられ大変そうです。力を入れすぎ指導員の教えとだいぶ違って埋めすぎてしまったり、線の上に乗っすぐ植えられなかったりでしたが、無事役目を終えました。

次の子に交代です。役目を終わった子はバケツに汲んだ水で泥にまみれた手足を洗ってもらい、交代したともだちを見ていました。「もっとやりたい人！」という



稲はこんなに大きくなりました
(撮影8月20日)

とみんながまた並んで順番を待っていました。結局みんな、2回から3回の田植えを経験。幼稚園の先生も飛び入りで参加し、大いに盛り上がりました。

終了後は、「楽しかった」と喜んで帰りました。秋には収穫し、お餅となって幼稚園のみんなの食卓にのぼります。

種まきをしました コスモスの花が咲きました！

6月15日(日)、「しながわ花海道」(勝島運河土手)で約500人が参加してコスモスの種まきが行われました。

まずは雑草刈りから始めなければなりません。これが大変、みなさん汗を拭きつつ雑草を刈り取りました。



「花海道」ではボランティアの方が交代で、時には一斉に雑草刈り、水やりなどの世話をしてくれています。今年の夏は雨が少なく、水やりが大変だったようです。こういったみなさんの協力があったはじめて、きれいなコスモスが見られるのですね。

8月下旬、コスモスの花が咲き始めています。9月から10月にかけては白、ピンク、紫色のコスモスが私たちの目を楽ませてください。また様々な形の花びらに注目してみると一層興味が増すのではないのでしょうか。



↑こちらは8月下旬に咲いているキバナコスモスです



←コスモスが咲き始めました
(撮影：8月23日)

10月19日(日)には「コスモスマつり＆菜の花の種まき」があり、きれいなコスモスを手にすることができます。また菜の花の種まきにもご参加ください。3月には一面菜の花畑が広がります。こちら楽しみです。

「しながわ花海道」へ是非一度足をお運び下さい。

最寄り駅：京浜急行 立会川駅、鮫洲駅
品川区勝島運河高潮護岸の土手周囲約2km

書評 コーナー



『できることから始めます』
廣瀬裕子著
(株)文芸春秋
(本体1,238円+税)

著者を含め10人の環境にやさしい行動が紹介されています。海が汚れています、自分たちがすぐにできることはごみを拾うことです。アクリル製の手作りエコたわし、洗剤をあまり使わないで済みます。箸や水筒を持ち歩く。環境問題はひとり考えるより家族で話し合おうなど。

この本は、工夫次第で今すぐにも環境にやさしい生活ができることを紹介しており、ライフスタイルを見直す機会を与えてくれています。



『エコアクションが地球を救う!』
(データに学ぶエコ生活のすすめ)
東京大学教授 山本良一[監修]
社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会[編著]
丸善株式会社
(本体1,500円+税)

蛇口をひねれば出る水、捨てられるごみの山、いつでもどこでも買える清涼飲料、24時間いつでも開いているコンビニやレストラン。便利すぎる現代社会にわたしたちは慣れすぎてはいないのでしょうか。こんな便利さは積み積もって環境の悪化にボディブローとなって効いてくるのです。てんぶらをした際の油をそのまま流しや下水に流している方はいないと思いますが、フライパンを使って調理した後の油はどうしていますか。ティッシュペーパーやペーパータオルの使い方はどうでしょう。

生活の視点から環境問題を考えるとともに、わたしたちのエコアクションについて、本書で一度チェックしてみたいかがでしょう。

エコな買物 ～環境にやさしい買物をしましょう～

2008年6月22日(日)環境学習講座「エコな買物」(講師:カタログハウス竹本徳子氏)が開催されました。

地球温暖化が進む今日、どんどん使って捨てる時代ではありません。商品を売る側(企業)としては「永持する」「修理できる」「回収再資源化可能」「地産地消」という考



えに基づいた商品の企画をすること。一方必要な物を必要なだけ買う、毎日の食事に使う食材の産地、フードマイレージを考慮する等、私たちにも日常生活でできることは沢山あります。

より良い環境づくりには私たち一人ひとりの環境に配慮した行動が大切です。

シロクマと地球温暖化 ～温暖化がシロクマの生存に影響を及ぼしている～

6月29日(日)環境学習講座「シロクマと温暖化」(講師:写真家 丹葉暁弥氏)が開催されました。

地球温暖化は、北極圏周辺に生息するシロクマの生存にも影響を及ぼしています。

何気ないわたしたちの日々の生活が、可愛いシロクマにも影響していることを、人間との共存という観点からお話し



ただきました。地球温暖化はシロクマにとって大変大きな問題です。温暖化により北極海の氷の面積が減り、また氷の張る期間が確実に短くなっています。氷がなくなるとアザラシが氷の上で子育てが出来なくなってしまうので、シロクマは主食であるアザラシが捕れなくなります。シロクマがアザラシ



出られる期間が短くなっており、今やシロクマは飢えに直面しています。年々個体数が減っているのが撮影に通っていて、はっきりと分かることでした。また今後30年以内には、絶滅してしまうのではないかと心配されています。温暖化は私たちの気付かないところでも確実に進行しているのです。

太陽光発電 ～未来のエネルギー社会に向けて～

7月15日(火)環境学習講座「太陽光発電～未来のエネルギー社会に向けて～」(講師:NPO法人 太陽光発電所ネットワーク事務局長 都筑建氏)が開催されました。

個人住宅では今でも日本は世界一の太陽光発電の国ですが、これを伸



ばすことが未来のエネルギー社会形成のベースになります。将来に向けて地球温暖化ガスの削減は必須のテーマであり、そのためには太陽光発電を始めとした新エネルギーの普及なしには困難と言えるのではないのでしょうか。

(このパネル一枚で動く扇風機↓)



品川区環境情報活動センター 今後のイベント予定

①鳥から見た環境変化

環境変化は鳥の生態にも影響しています。冬鳥であったヒヨドリやハクセキレイが越夏(夏でも日本を離れない)するようになり、1年中見られる鳥になりました。

ツバメ、カラス、スズメの知恵や賢さについて興味を持っていただきながら、鳥から見た環境変化や身近な都市鳥の生態変化について話していただきます。

日時/9月21日(日)14時～16時

②さき布から「ぞうり」を作ろう

家庭にある古い布を使ってオリジナルのぞうりを作る講座で、ぞうり作りを通してリサイクルに関心を持っていただくことが目的です。2日かけ

てみなさん一足のぞうりを完成させて頂きます。春の開催に続く秋の講座で、毎回好評です。

日時/9月23日(祝)と28日(日) 14時～16時30分

③野菊の苔玉作り

かわいい野菊を、今流行の苔玉に植え替えて、オリジナルの素敵なオブジェを作ります。10月後半開花予定の花を使い、講座の後も作品を觀賞していただけます。

日時/10月2日(木)14時～16時

④白熱電球はなくなる?次は湯沸器が～省エネをやさしく科学する～

身近な製品で環境問題をやさしく考えます。

日時/10月26日(日)14時～16時

講座の名称はいずれも仮称です。応募方法等については「広報しながわ」、品川区環境情報活動センターのホームページにて後日掲載します。

しながわECOだより2008年度Vol. 2

発行:品川区環境清掃事業部

編集:特定非営利活動法人

エコタウンしながわ

発行日:平成20年8月30日

住所:〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX: 03-5742-6533

E-mail: center@shinagawa-eco.jp

HP: http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

公園で季節の移ろいを観察しましょう ~ 歴史を語る公園 & 新しく生まれた公園 ~

戸越公園 ~ 歴史を語る公園

豊町2丁目にある戸越公園は、江戸時代に旧熊本藩主細川家下屋敷として拝領した後、寛文11年(1671年)に整備された江戸の大名庭園の一部です。

戦後、区に移管され数度の改修を経て、歴史的な情緒や武家屋敷の風情をかもし出しており、区を代表する公園となっています。池を中心とし渓谷や滝、築山などを配置して、ゆっくりと一周できる回遊式庭園です。樹木は梅、桜、ツツジ、モミジなど季節の花や木が美しい公園として区民に親しまれています。

散歩をする人、子どもと楽しく時間を過ごす人、お年寄りの語らいの場として、また広場では各種行事も催され、区民の憩いの場所になっています。



東品川海上公園

~ 新しく生まれた公園

東品川2丁目にある東品川海上公園は、区民に水やみどりに親しむ憩いの空間を提供しようと平成19年3月31日にオープンした水辺環境を生かした公園です。

園内は桜並木がきれいで、春はもちろん、秋の紅葉も楽しめる新しい公園として親しまれています。



公園に隣接する下水道局東品川ポンプ所の建物の屋上が公園の一部として庭園に整備されており、ボランティアが花壇の植栽と手入れを行っています。



皆さんのお住まいの近くにも、こんなに素晴らしいところが!

星薬科大学 (荏原2-4-41)

正門をくぐると左右に黄葉した見事なイチョウが出迎えてくれます。中原街道から少し入ったところにあり、都心とは思えない静けさと緑に囲まれキャンパスは勉学には最高の環境です。

キャンパス内には薬用植物園があり、約800種の薬草が栽培されており、一般に公開されていますので是非見学してみたいかたがでしょう。



都立林試の森公園 (小山台2-6)

品川区と目黒区の境にあり、以前の林業試験場が移転後、平成元年に都立公園として生まれ変わりました。

きれいに整備された道ではウォーキングや散歩をする人、休日のひと時を楽しむ家族連れが見られました。

池は紅葉した木々を水面に写し、それをカメラに収める人が見られました。



しながわ中央公園

(西品川1-27・28) 区役所と道路を挟んで向かい合った公園は平成15年4月1日にオープンした新しい公園で、毎年5月には「しながわECOフェスティバル」が開催されています。噴水や流れ、ロックガーデンの広場があり、子ども連れのお母さんたちの姿がよく見られます。

サクラの鮮やかな紅葉が私たちのこんな身近で見られました。



品川区環境情報活動センター 今後のイベント予定

食材を使い切る、食べ残さない ~ 新宿中村屋のシェフが教えるおいしいカレー教室 ~

市販のカレールーを使ったおいしいカレーの作り方教室です。たべもの環境についても学びます。
日時 / 1月24日(土)13時30分 ~ 16時
場所 / 荏原文化センター料理講習室
対象 / 小学5年以上・中学生と保護者

厳しい自然の中でイキイキと暮らすペンギン ~ カメラを通して見る ~

南極やニュージーランドの野生のペンギンたちの様子を写真で紹介しながら、人の生活と野生のペンギンとのかわりについて学びます。
日時 / 1月25日(日)14時 ~ 16時
場所 / 環境情報活動センター

巨木が語る地球&カメラ教室 ~ カメラを通して植物と仲良く ~

世界の巨樹・巨木を撮った写真の紹介とカメラを通して植物と仲良くなるためのコツを学びます。
日時 / 2月6日(金)14時 ~ 16時
場所 / 品川シアター (区役所内) 他

世界で1冊のアート本 (絵本)

参加者がデザインしたカラー作品を重ねて1冊の本にします。
日時 / 2月13日(金)14時 ~ 16時
場所 / 環境情報活動センター

フォトジャーナリストの視点で環境を語る ~ 世界の辺境地で見えた '地球といのち' ~

日時 / 2月26日(木)14時 ~ 16時
場所 / 品川シアター (区役所内)

講座の名称はいずれも仮称です。応募方法等については「広報しながわ」、品川区環境情報活動センターのホームページにて後日掲載します。

しながわECOだより2008年度Vol.3

発行: 品川区環境清掃事業部
編集: 特定非営利活動法人 エコタウンしながわ
発行日: 平成20年12月17日
住所: 〒140-8715 品川区広町2-1-36 品川区環境情報活動センター内
TEL/FAX: 03-5742-6533
E-mail: center@shinagawa-eco.jp
HP: http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう



品川区環境情報活動センターだより

2008年度 Vol.3

環境記者活躍中

第7回環境記者情報交換会開催

平成20年10月3日、第7回環境記者情報交換会が8名の環境記者の出席のもとで行われました。環境記者の皆さんの環境に対する関心や取り組みは様々で、お互い新鮮な話に耳を傾けました。

ビルの建築ラッシュで自然が失われてゆく中、建設説明会で緑化を取り入れるよう要望した。

屋上菜園でいろいろな野菜を作っている。今年は、小玉だが皮が薄くて甘いスイカができた。同時に断熱効果抜群で、屋上雨水も100%利用している。



目黒川を定点観察しているが、水の色が雨、気温、生活排水などで変化する。区の浄化活動のお陰で以前に比べるときれいになっているが。

朝の街並みを眺めると並木がきれいだが、いろいろなものが落ちていた。公共の場所を綺麗にしたいという気持ちでタバコの吸殻や空缶を拾っている。

五穀米の種まきから収穫までを行い、苦労もあったが良い経験になった。今日都会ではなかなか見られないアワやキビの紹介があった。

環境活動さまざま

自分もごみを拾っている。また町会でも落ち葉やごみ拾いを行っている。星薬科大学の薬草園は自由に見学でき、季節感を味わうことができる。



子供の出産を機に食の安全性や地球環境に注目するようになった。若い層がもっと身近な環境問題に関心を高められるように情報発信をしてゆきたい。

夏休みには皆さんの協力で「打ち水会」を行ったが、1日だけではなく習慣化して欲しい。秋には区内で環境に関する様々なイベントがあり、参加、あるいは注目しましょう。

環境記者、ボランティアとしても活躍中

環境記者の真壁美枝子さんが、南大井2丁目のマンション6棟の皆さんと力を合わせて行っている環境整備活動についてご紹介します。「花交差点の仲間たち」(ボランティア名)は花を介して地域のいろいろな世代が交差し、子供たちの心に残る花のある街をつくり、こころ豊かに(心の環境整備)安全で住みやすい環境にすることを目的に活動しています。



歩道花壇の植替え

11月上旬、ボランティア52名で秋から春先までの花を歩道花壇に植替えました。今回はマンション毎に花選定したこともあり、それぞれの特色が出ています。「わが花園が一番!」と自慢話に華が咲く、楽しみ方もいろいろな大森海岸南大井2丁目花ロードです。

行き交う人たちに楽しんでいただけるよう日々の手入れを行っています。



花の種類

・ラベンダー(「花交差点の仲間たち」のシンボル花です)
毎年ラベンダーの生花やポプリを使用してクラフト作りを行っています。
・シラメン、デージー、プリムラ、パンジー、クリスマスパレード、ストック、セージ、マリゴールド、コリウス



パンジー、シラメン、ストック、クリスマスパレード、マリゴールド、セージ、コリウス

環境学習講座

さき布から「ぞうり」を作ろう

9月23日、28日の2日間(計5時間)「さき布からぞうりを作ろう」(講師:布ぞうりサークルしながわ宮嶋氏ほか)が開催されました。毎回定員の数倍の申し込みのある人気講座で、本年度も今回が2回目です。

まずは基本を教わります。みなさん初めての方で最初のヒモと布を合わせる作業が一番難しいようですが、そこを終え

ると半分できてしまいます。指導員に聞いたり、隣同士が助け合いながら作業は進みます。

この講座は2日間の講座で、2回目に集まった時は友達同士で集まった会の様

でした。ついに完成です。白いぞうりはタオル生地で作ったぞうりのため生地が厚く、肌触りも良いようです。生地の違いで出来具合も変わってくるようです。



野菊の苔玉作り

10月2日「野菊の苔玉づくり」(講師:園芸研究家 伊藤金美氏)が開催されました。今回使用する草花は、アジガ、サイバキナシ、アジガ、アジガ、アジガの5種です。

まず寄せ植えの基本的なポイントとして、草花の特徴、用土、日当たり、配置の仕方、植物の性質の近いもので組み合わせるなどの説明があり、続いて実習に入ります。

植物のバランス、芯の向きをうまく考えて土を少しずつ落とし、好みの形に配置します。形が決まったら針金と紐で固定します。周りを土で固め、最後に苔を下地にしっかりと密着させて、紐をぐるぐる巻いたらできあがりです。

さあ、できあがりしました。それぞれはどれも地味な草花ですが、とてもエレガントなオブジェに変身しました! かつての日本ではどこにも見られた野辺の花が、この頃はめずらしくなりつつありますね。



鳥から見た環境変化 9月21日(日) / 講師:自然観察大学副学長 唐沢孝一氏

都市におけるスズメ、ツバメ、カラスの生態についての講義がありました。スズメは地味な野鳥で、民家の周辺に棲んでいます。最近では都市ビルに居を移す傾向にあります。ツバメの棲みやすいところは水と緑の多いところ(食べ物と巣の材料がある)、安全な場所(人がいる、天敵であるカラスがいないところはツバメにとって安全)



カラスは大変利口なことで知られています。コンビニ店でもらうゴミ袋で巣を作る、車のタイヤで食べ物のゴミの硬い殻を割る、食料を保存する、攻撃できそうな人間を見極める等々です。水と緑に恵まれ、活気ある商店街があり、益鳥であるツバメを残してこそ未来があると思います。ツバメやスズメが棲めないところには人も住めないのです。笑いの絶えない楽しい講義が終了しました。

環境紙芝居~ちきゅうがたいへんだ!&おもしろミニ実験~ 11月3日(月)

温暖化による地球環境破壊は人類と生物の生存を脅かす近未来かもしれません。かけがえのないこの地球のためにできることは何でしょうか。温暖化の現状を学び、ミニ実験を通して身近な対策を子どもたちは親と一緒に考えました。



温暖化の影響で、2050年

頃までに自然界ではキリマンジャロ山頂の雪が消えたり、100万種以上の陸上生物が絶滅するなどの大きな変化が予測されています。しかし人間の努力と科学の力により、地球環境を変えていけるのではないのでしょうか。電球で省エネ比較実験をしました。白熱電球から蛍光

電球にするだけで電気の消費量は5分の1、LEDでは6分の1になります。少しの電気で同じ明るさがとれるのです。温暖化問題を忘れることなく、自分にできることを続けてゆく事で未来はきっと変えられます。



カードゲームで知る自然の不思議体験 11月16日(日) / 講師:環境加セラ 漆原敏之氏

鳥や昆虫の親子(成虫と幼虫など)、分かりますか?鳥の足やくちばしの形には特徴がありますが、これらは生きてゆくために与えられたものです。環境情報活動センターにてほしい想像上の鳥を描いてみました。食物連鎖についての勉強をします。カードには番号がついており、緑

色のカードは1番休、2番休、3番休、4番休、5番休です。さてこの5枚のカードはどんな関係にあるでしょう。1 2 ... 5番の順に餌になるので、それぞれの生き物は彼らの餌がないと生きていくことができません。地球上

の生き物全部をこの関係でピラミッドの形に置いたとすると、頂点に来るのは、そうです人間です。その一部が欠けたら人間は地球上で生きていけなくなるかもしれません。実は人間を支えているのは多くの生き物で、それらがつながりを持って生きています。



稲刈りをしました お餅となって食卓に並びます!

10月15日(水)区役所屋上の田んぼで、二葉幼稚園児が稲刈りを行いました。5月21日に田植えをしてから約5ヶ月で穂もたわわに稲が実りました。朝方の雨もすっかり上がり、気持ちのよい秋の太陽が園児の稲刈りを応援してくれているようで、参加した18人は元気一杯、稲刈りの前からみんなワクワク気分です。



ボランティアの指導員からお米と稲刈りについての説明を聞いた後、一人ひとり指導員と一緒に稲を刈ります。園児の手にはかなり手ごたえがありそうですが、みんな一生懸命です。



18人全員が一回り終えたところで稲はまだ残っています。僕も私ももう一度稲刈りしたいとばかり列を作っています。ここからは刈った稲を干す人と、もう一度稲刈りする人とに別れます。稲はこんなふうにして干すのかをみんなは知りました。稲を担ぐ様子もかわいいですね。



園児の元気な声が飛び交い、たのしい稲刈りが無事に終了しました。収穫した米はもち米で、この後お餅となってみんなの食卓にのびります。

子どもたちが参加する区役所屋上の田んぼでの米作りは平成18年から毎年行っており、今回で3回目です。5月21日の田植えから始まり、稲刈りまでを学んだ園児たちは、都会ではなかなかできない貴重な経験をしたと思います。

コスモスの刈り取りと菜の花の種まきをしました 春は一面菜の花畑に!

11月9日(日)、「しながわ花海道」(勝島運河土手)で約500人が参加してコスモスの刈り取りと菜の花の種まきが行われました。

6月15日の種まきから約5ヶ月、8月中ごろから花が咲き始め、これまで白、ピンク、紫のきれいなコスモスが私たちの目を楽しませてくれました。



「しながわ花海道」は平成14年に立会川商店街と鮫洲商店街が中心になって「プロジェクト」を設立し、管理運営しているものです。ここ勝島運河の土手は品川区の了解を得て、地域住民や商店街のみなさんが秋のコスモス、春の



菜の花を中心に自主的に育てているもので、コスモスと菜の花の育成は毎年の恒例行事になっています。今年は油の採れる菜の花の種をまきました。



3月には一面菜の花畑が広がり、6月頃には菜種から採取する油を使ったおいしい料理も楽しみですね。



「しながわ花海道」へ是非一度足をお運び下さい。最寄り駅:京浜急行 (2008年3月撮影) 立会川駅、鮫洲駅 品川区勝島運河高潮護岸の土手周囲約2km

書評 コーナー



『環境がわかる絵本 (改訂版)』 文:佐伯平二 イラスト:長崎訓子 (株)山と溪谷社 (本体1,400円+税)



地球サミット、資源の枯渇や新エネルギーといったグローバルな問題から、環境問題の実態、そして私たちの暮らしと環境といった身近な問題についてまで、簡潔な説明がなされています。なお、本書は子ども向けの絵本ではありません。説明は短いものですが、要点をしっかりと伝えてくれており、この本を1冊読めば環境問題の概要をつかむことができるのではないのでしょうか。

『海から見た地球温暖化』 (異常気象、気候変動の現場に行く) JAMSTEC「Blue Earth」 (独立行政法人 海洋研究開発機構) 編集委員会 著 (株)光文社 (本体1,600円+税)



「地球温暖化は後戻りできない気候変化で、現在北極海で進行している“海の温暖化”と海水の減少も後戻りできない」こういったショッキングな内容の書き出しで始まっている。白い氷は太陽光をよく反射するが、青色の海水はそれをよく吸収するため北極海の海水の減少は温暖化を加速させる。また北極の氷の減少についてはよく話題になるが、南半球の気候変動は緩やかだ。これは南極の氷は厚いため、氷が多少溶けても太陽光の反射の仕方は変わらない、これが南北両極の気候変動の違いと言う。 私たちの日常活動でのちょっとした気遣いが、温暖化にブレーキを掛けることになるのでしょね。

しながわ ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2008年度 Vol.4

しながわ環境大賞決定

平成21年2月14日（土） きゅりあん小ホール

しながわ環境大賞の授賞式が、2月14日（土）きゅりあん小ホールで行われました。しながわ環境大賞は平成18年度に品川区によって創設され、環境保全に関する活動について、他の模範となる団体や個人に対して贈られるものです。

今回が3回目で、受賞者は昨年10～11月に公募した23の団体等から選考委員会を経て決定されました。



環境大賞の活動をご紹介します

●モトローラ株式会社



同社ではグローバルサービスセンターを品川区大崎駅前と小山台林試の森公園の清掃美化活動

活動を行っています。大崎のシンクパークタワーにある東京本社では大崎駅周辺と小山台林試の森公園の清掃美化活動を行いました。活動目的は品川区の美化への貢献と昨年の6月に認定された品川区エコクリーン事業所としての責任を果たすことです。活動には社長以下63名が参加し、「ごみの多さに気づいた」「良い気分転換になった」等の感想がありました。また大崎西口公園に花壇をつくり、地域貢献をしています。草とりや水遣りだけでなく公園の清掃やフラワー日誌を書いて情報の交換も行っています。

●浅間台ダディズクラブ



同クラブは浅間台小学校の保護者、同窓生、地域住民により構成されており、平成17年にビオ

トプを作りました。ビオトプは設計から始め、児童と一緒に土を掘ります。途中では機械を導入して着実に進めることができましたが、水道管に穴を空けてしまうハプニングもありました。苦戦しながらも、地域の方の協力も得て、花壇が綺麗なビオトプへと生まれかわることができました。ヤゴ救出大作戦は、小学校のプール開きによってプールにいるヤゴが全滅するのを助け出す活動です。救出した後、児童に育て方のレクチャーをしました。また20年度には、新たに児童と一緒に体育館裏を畑に開墾し、野菜を育てました。

●松本真理愛とその家族



小学校6年生の松本真理愛さん。しながわ版家庭ISOを区内でただ一人6年間続けています。これ

れはご両親が真理愛さんに、地球環境に意識を向けて生きるのが当たり前と思える人に育ってほしいという願いからはじめたものでした。電気をこまめに消す等、家族で話し合いながらエコ活動をしました。エコ活動は無理をしないのが続けられるコツ！ですね。「友達は受験勉強を夜中までしていたのですが、私は電気を使わないためにも夜は早めに寝ました。でも合格できたのでエコと受験は両立できると思います。良い環境をつくりたいと思う人が増えればきっと環境もよくなると思います」とのことでした。

環境賞

旗三新和会（みどりと花のボランティア）、小山台1丁目町会（資源リサイクル活動）、東品川児童センター・北品川児童センター（「かっぱっこまつり」のエコ・リサイクルコーナー、打ち水大作戦など）、二葉保育園（環境教育）、荏原保育園（5歳児卒園製作「リサイクル和太鼓」作りなど）、清水台小学校（アルミニウム缶のリサイクル）の6団体が受賞しました。

環境学習講座

発光ダイオードを使った光と色のふしぎ探検

3月1日(日)環境学習講座「発光ダイオードを使った光と色のふしぎ探検」(講師:おもしろ!ふしぎ?実験隊 久保利加子氏)が環境情報活動センターで開催されました。テレビの画面は赤・青・緑の3色の光でできており、この3色の光の明るさを少しずつ変化させることでさまざまな色の光を作り出しています。

発光ダイオード(LED)は小さな電球のようなもので、それに乾電池を取り付けると鮮やかに光り、紙コップに入れるとまるで「光のジュース」になります。赤のコップに青のLEDを入れるとマゼンタ(ピンク)になります。このようにしていろいろな光を作ることができます。



つづいていろいろな色の影を作ります。A4の白いコピー用紙、LED、鉛筆をそれぞれ右写真のように置き、紙のスクリーンに映る影の色を観察します。鉛筆とLEDの位置を変えるたびにいろいろな色の影が現れます。



白熱電球や蛍光灯に代わって将来の明りとして期待されているLEDですが、消費電力が少なく寿命が長いため、私たちの身近では交通信号機などに使われるようになってきています。

タイトル通りのふしぎな探検ができ、参加してくれたみなさんが良い体験をお持ち帰りいただいたと思います。

ベランダで楽しむガーデニング

3月7日(土)環境学習講座「ベランダで楽しむガーデニング」(講師:千葉市花の美術館館長 斉藤久芳氏、同花卉園芸係 菅原由紀氏)が環境情報活動センターで開催されました。200名近い応募者の中から選ばれた30名のみなさまは大変幸運な方々です。

斉藤講師から、ガーデニングの楽しみと環境についてレジュメに沿って詳しくお話いただき、菅原講師からは実際に「千葉市花の美術館」で行われている寄せ植えのスライドを見ながら



「コンテナ寄せ植え」のポイントについて話がありました。続いて参加者のみなさんは本日の花6種類、8鉢を組み合わせる寄せ植えに取り掛かりました。丈の高い「ランキユラス」「リリアグッピー」を中心にすえ、丈の低い鉢「デージー」「ワスレグサ」などの色を考え植え込みます。実技だけでなくガーデニングの歴史、環境について話があった今回の講座は、大変参考になったと好評でした。草花の好みは時代により変化があり、1983年と2007年の調査を比較すると、ひまわりはランク外から5位へ、反対に菊は3位から14位になっているそうです。しかし桜はどちらも1位で、まさに日本人好みの花と言えます。

ガーデニングに興味を持っている方が、年齢・男女を問わず大変多いことを感じた講座でした。



世界の辺境地で考える‘地球といのち’ 2月26日(木) / 講師:フォトジャーナリスト 桃井和馬氏 (品川シアター)

講師はこれまでに世界の約140ヶ国を取材で訪れており、そこで見た戦争や飢餓、貧困と環境問題は深い関係にあると考えました。この講座では取材で撮影した写真を品川シアターのビッグスクリーンで見ながら、ジャーナリストの視点から世界の辺境地での環境問題についてお話いただきました。



地上最大の哺乳類であるアフリカ象は大量の植物を食べ、フンを撒き散らしながら移動しています。フンの中には消化されない植物の種がたくさん混じっており、植物は象に食べられることでいろいろな場所に子孫を残すことができるのです。自然界に存在する動植物は、お互いにかかわりをもった循環の中で生き



ています。しかし私たち人間は自然界でどんな貢献をしているのでしょうか。人間が引き起こしている地球温暖化や自然破壊が、その循環を崩しつつあります。今私たちがしなくてはいけないこと、それは自然を見つめなおし、生き物の生命を守ることでないでしょうか。ジャーナリストならではの切り口から環境問題についてお話いただきました。

世界で一冊のアート本 2月13日(金) / 講師:アートディレクター 竹中信子氏 (環境情報活動センター)

アート本とは、使わなくなったものを好きなように貼って、カラー

ジュ作品を作り、まとめて本にするものです。家庭で出る不用品(ボタン・布・毛糸・ビーズ・ひも・雑誌の切り抜きなど)を使ってA4の大きさの紙に材料を貼り付け、



カラージュ作品を作ります。できあがると絵画のようになります。

テーマはあってもなくても良く、意味のあるものでもないものでも良い、自由な表現で作品を作ります。

できた作品をスキャナーで読み取り、パソコンに取り込んで、プリンターからカラー

で印刷します。自分の作品を表紙にし、印刷した出席者の作品を好きな順にまとめて冊子を作ります。全部あわせてホチキスで綴じ、製本テープをまきまます。これでアート本の完成です。



しながわにも春がやってきました

<しながわ花海道>

しながわ花海道にも春が訪れました。昨年11月に蒔いた菜の花の種から花が咲きました。咲き具合にはかなりのばらつきがありますが、今年も勝島運河護岸一帯を菜の花が埋め尽くしてくれます。



今年は油の採れる菜の花の種をまき、6月頃には油を採取することになっています。油を使ったおいしい料理も楽しみです。（撮影：3月10日）

<しながわ中央公園>

区役所前のしながわ中央公園における春の訪れをご紹介します。三寒四温のこの時期、花も咲こうかどうか迷っているようですが、サンシュユとハクモクレンが私たちを迎えてくれました。早春の光を浴びた黄色く輝くサンシュユは小さな花をたくさんつけています。



一方、白い清楚なハクモクレンは、ふっくらと厚みのある花びらが上を向いて咲いており、春の温かみを感じさせてくれます。



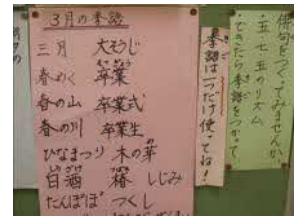
どちらも漢方薬としても利用されており、春を代表する花木です。近くの公園に親子で出かけ、季節の自然と触れ合うことも楽しいと思います。（撮影：3月11日）

「俳句」を通して季節を感じる心を養おう！～大原小学校～

季節感と自然を読み込む俳句を楽しむことは、まわりの環境に目を向け、それを意識することにつながります。当センターのホームページに毎月掲載している「しながわ子どもの俳句」について、品川区内の大原小学校を訪ね、話を伺いました。

大原小学校では、初めて俳句にふれた小学1年生から、授業で習う5・6年生まで、自由に俳句を詠んでいます。

毎月校長室の掲示板にその月の「季語」（3月は「卒業」



「ひなまつり」など）が張り出されると、子どもたちは俳句を作ってポストに入れます。校長先生が翌月それらをまとめて審査し、その後「金・銀・銅」の賞とともに、投稿した全員の俳句がすてきな短冊になって、壁に張り出されます。その月が終わると、各月にふさわしい



デザインをほどこした掲示板（1月は羽子板、10月は紅葉など）に1年間の「金・銀・銅」賞の作品が掲示され、1年後にそれぞれの児童に渡されます。

俳句の投稿用紙はもちろん「裏紙」を使用しています。自然に子どもたちにも環境に配慮する考えが身につくのではないのでしょうか。



品川区環境情報活動センターを利用しませんか

当センターは、子どもを含め区民や事業者など、多くの方がライフスタイルを考えたり、環境にやさしい生活などの情報を得られるスペースです。

みなさまが環境についての情報収集や情報交換をしていただくために、自由にご利用いただけます。

●センターのご利用について

環境に関する活動をする団体もしくは個人どなたでも無料でご利用いただけます。セミナールーム(会議室)の他、数人の方でご利用いただけるミーティングコーナー、環境に関する書籍・雑誌等を備えた資料コーナーがあります。セミナールームの予約については当センター窓口、あるいは下記ホームページで受け付けています。

(<http://shinagawa-eco.jp/>)

利用時間：9:00～17:00、土日祝も利用できます。

(12:00～13:00、および年末年始を除く)

なお、詳細は当センターまでお問い合わせください。（電話番号03-5742-6533）



環境記者活躍中

2月7日(土)、第8回環境記者情報交換会が7名の環境記者の出席のもとで行われました。

34年間京浜運河に生息する生きものを観察している青野さん。運河の環境は外海からの流れ込みが影響している。現在運河では護岸工事が行われているが、生きものの酸欠が心配。

布川さん宅や隣家にある庭には緑が多少あり、去年は隣家の柿(甘柿)の木が豊作で、一部は鳥のために残しておいてあると言う布川さん。冬はあまり餌がない時期だが、鳥たちはその柿をついばみに来ていた。

品川にも風力発電の利用を考えたらと語る覚張さん。歩くことは健康にも良いが、自然の発見や思いがけない出会いもある。体力が続く限りウォーキングを続けたい。

環境に関することや小中学生と接することのボランティアに関わっている勝山さん。本年5月24日(日)予定のしながわECOフェスティバルは、いろんな企業や学生が環境について発表する場、触れ合う場であり、参加しましょう。



体育指導委員でもある石毛さん。地元では商店会長をしており、地元での環境について一言。街路灯の下にプランターを置き花を植えている。街並みをキレイにするということと同時に、大型のトラックが街路灯を壊すことを避けるためでもある。

第8回 環境記者 情報交換会

地域でのボランティアを通じて環境を見てゆきたいという真壁さん。国道(第一京浜)の沿道をきれいにしようと、南大井二丁目の六棟のマンションの住民が環境整備活動(歩道花壇作り等)を行っている。



インタメディア代表の佐山吉孝氏から「ちょっとエコな視点で見た私の好きなしながわ」と題して、戸越周辺(戸越銀座)のちょっと気になる観察ポイントを紹介していただきました。

テーマを決めて何かをまとめようとすると、よく知っているつもの



街でも最低3回は歩かなければいけない。また街を知るためには歴史や地形を知ることも大切で、自ずと注目するところも違ってくる。

また記事を書くに当たってのアドバイスをいただきました。

まずは歩くこと、その中から自分のテーマが見つかってくる。商店建築、路地の井戸やごみ箱、張り紙な



真壁さんとともにエコサポーターでもあり、エコフェスティバルには毎年参加している白石さん。

どからも時代と人々の暮らしぶりが見えてきます。どんなささいなことでもいいですから、自分なりのテーマを見つけてください。そして気になることがあったらその観察を続けることです。しばらく続けて積み重ねていくと、だんだんとそのものが持つ意味とか価値が見えてくるものです。

品川区環境情報活動センター 今後のイベント予定

- ①古布でこいのぼりを作ろう(一般)
不用の帯や着物などを利用して、かわいい「こいのぼり」を作ります
日時/4月24日(金)14時~16時
- ②さき布から「ぞうり」を作ろう(中学生以上)
家庭にあるさき布を使って、オリジナル「ぞうり」を作ります
日時/5月5,6日(祝)14時~16時30分
- ③燃料電池でプロペラを回そう(小学生)
太陽光と燃料電池を使ってプロペラを回します
日時/5月17日(日)14時~16時
- ④シロクマと地球温暖化(一般)
地球温暖化がかわいしいシロクマの生存を脅かしている状況をカメラを通して見ます
日時/5月31日(日)14時~16時

- ⑤品川にいる海の生きもの(親子)
日時/6月7日(日)10時~12時
場所/しながわ水族館
- ⑥自然環境と街づくり(一般)
日時/6月14日(日)14時~16時
- ⑦身近な自然観察入門(一般)
日時/6月16日(火)14時~16時
- ⑧ワンダーボックス万華鏡(小学生)
日時/6月28日(日)14時~16時

「場所」の記載のない講座は、すべて環境情報活動センターで開催予定。講座はいずれも予定、名称は仮称です。応募方法等については「広報しながわ」、品川区環境情報活動センターのホームページにて後日掲載します。

しながわECOだより2008年度Vol.4

発行: 品川区環境清掃事業部
編集: 特定非営利活動法人
エコタウンしながわ
発行日: 平成21年3月30日
住所: 〒140-8715
品川区広町2-1-36
品川区環境情報活動センター内
TEL/FAX: 03-5742-6533
E-mail: center@shinagawa-eco.jp
HP: http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています